

都市に残された環境における自然環境学習 ～立川子ども自然探検団を通して～ NPO 法人 集住グリーンネットワーク

活動の概要

開催日時 (2006～2007 年)	活動内容	参加人数	講師
9月 9日 10～12時	植物の観察会	30名	東京都環境学習リーダー 山岸修子
10月 14日 10～12時	昆虫の観察会	35名	東京都環境学習リーダー 初芝伸吾
12月 9日 10～12時	工作活動	22名	ガーデンデザイナー 中林美智子
2月 3日 10～12時	鳥の観察会	32名	獣医 甲野涼

参加者の概要

立川市の広報紙を利用して、毎年4月に探検団員を募集。応募条件は市内の小学校に在籍していること。団員は全部で70名登録しており、小学生の低学年が多い。そのため親子での参加が多く、実際は親や兄弟も一緒に参加するので、フィールドはいつも多くの参加者で一杯である。

活動風景

9月 植物の観察会

テーマ：夏の植物探し 植物でビンゴ！ 植物を利用したアートな作品作り

ねらい：原っぱにある植物の多様性に気づく 集めた草で夏の思い出をスケッチ

プログラム：夏をすごした原っぱは小さな子供達の腰の高さ程に。一見何の変哲のない原っぱをよく観察してみると 40種類以上の草本があります。今回はそれらを集めてビンゴゲームです。最後に集めた植物を使って夏の思い出のスケッチ作り。一体何列のビンゴが完成するのでしょうか？

活動風景



総評：あちらこちらで「リーチ!」、「ビンゴ!」の叫び声が聞こえてきます。今回は 36 種類の草本を問題に出したのですが、問題作成者のスタッフが2時間程度もかけて見つけ出した草本。簡単には探すことができないだろう、と思っていたのですが、子供達の好奇心は旺盛です。植物マップに置かれた番号のついた草本をよく観察して、たくさんのお宝達を探し出してくれました。ゲームに参加することで知らないうちに原っぱの多様な植物に触れることが出来たはずです。最後に採集した植物を利用して立派なアート作品も作ってくれました。

10月 昆虫の観察会

テーマ：秋の昆虫探し 昆虫でビンゴ! 昆虫のスケッチ

ねらい：昆虫をよく観察してスケッチしよう 昆虫の鳴き声に注目してみよう

プログラム：昆虫は季節によりそれぞれに活動している種類が違います。さらい地面や草の高いところ、低いところと、場所によっている虫も違います。予め収集した昆虫達を観察しながら、原っぱをチームで探索。全部で 20 種類以上のカマキリ、バッタ、コオロギの仲間が見つかりました。最後に捕まえたコオロギが鳴く姿を観察。そしてお気に入りの昆虫をスケッチ。

活動風景



総評：同じカマキリでも体の大きさ、足や背の色彩により名前が異なることを、様々な種類を見つけることで覚えることができました。また苦勞して捕まえた虫を選んで、細部までよく観察しながらスケッチを実施。ゲーム終了後には捕まえたコオロギの鳴き声の仕組みを観察。昼間はなかなか鳴いてくれませんが、静かにする、暗くするなどいろいろ工夫して、鳴いた時には大歓声。身近な原っぱにも多くの種類の昆虫達が生息していることを感じる事ができました。

12月 工作活動

テーマ：自然の素材を使ってクリスマスオーナメントを作ろう！

ねらい：森の中の素材にどのようなものがあるか知る 自然素材でクラフトの作り方を学ぶ

プログラム：公民館で森や林にある自然のものを使ってクラフト作りをしました。クラフトはクリスマスシーズンなのでオーナメントとリース作り。参加者で共通のオーナメントを作成した後、クズのツルを使ったリースとケヤキの枝を使った星型のリースのどちらかを選択して製作。

活動風景



総評：100円ショップでリースなら買ったよ！という子供達に身近に存在する自然素材を自分達の手で獲得して、それを作品に作り上げることがねらいでしたが、雨のために森での探索は断念。スタッフが素材を採集したのですが、なるべく山にある状態のまま持参して、参加者に生の素材に触れてもらうように配慮しました。自然の素材、家庭で手に入るリサイクル品、そして少しお洒落な材料を加えることで、なんでもないものが個性あふれる立派な作品へと変化していくという感動を味わうことが出来たことでしょう。

2月 鳥の観察会

テーマ：多摩川に飛来する鳥を観察しよう！

ねらい：活動フィールドと多摩川の鳥の違いを感じる 場所によって鳥の種類が異なることを理解する

プログラム：3～4人のグループに分かれて班行動で観察。観察の舞台は草原（グラウンド）、高茎草本のブッシュ、樹林、河原。川の中も、浅瀬、深みと多様な環境に富む場所です。従ってそれぞれの場所で、様々な異なった種類の鳥を観察することができます。また普段活動している原っぱと距離は近いのですが、環境が異なっているので、生息する種類も異なるはず。団員達がフィールドと同じもの、違って探し出すこともねらいの一つです。

活動風景



総評：いつもは遠くに見える富士山がこの日は、フィールドスコープを使用することで目の前に。チョット違った姿を見ることで望遠鏡の威力を知った団員達はさっそく鳥の観察に。しかし相手は生物。とても素早く動くために、大人のリーダー達もなかなか上手く、望遠鏡の中に入れることが出来ません。しかし樹の上にいたシメが鳴いている姿を見ることができた団員は、美しい姿と鳥の鳴く声が頭の中で一致することができ、バードウォッチングの魅力に取り付かれたようでした。

活動の成果

地域との関係性

開催回数を重ねる毎にフィールドの原っぱへの子供達の愛着が増していっているようである。会の終了後もすぐに帰らない子供が増えていき、開催日以外の日でも団員の子供達が昆虫を採集する光景を見ることができるようになった。また終了後に母親同士でお弁当を一緒に食べる機会が増えて、子供達だけでなく、親にとっても原っぱが自然環境に触れ合う場だけでなく、交流の重要な要素を占め始めているようである。

学芸大学生の学び

主催者側にとって、地域での地道な活動を対外的に発表する場が恵まれていないのが現状である。現代 CP のプロジェクトに参加することにより、活動内容や活動案内をホームページ等を通して外部へと発表する機会を得ることができ、活動している側の励みになると同時に、第三者に見られることで、より良く、より楽しいプログラムの開催を実施しようという意欲につながり、結果的に質の高い活動を開催することができた。